

- ・ メンバー主催の目標設定のイベント。今年は10年プロジェクトとして目標設定グループは作らないということで、各メンバーに委ねられた格好となった。Aさんが先陣を切ってイベントを主催してくれた。メンバー間で謝礼が発生するというのも初の試みで、緊張感があった。ただ、謝礼の有無いかんより、せつかく声をかけてもらったのだから、Aさんの目標がよりブラッシュアップされる時間になるよう、貢献したいという気持ちで臨んだ。

私は、Aさんの年間テーマである「面倒くさげらずに掘り下げる」について質問した。あゆみさんの言う「面倒くさい」は、自覚しているものではなく、行動していない理由を掘り下げると「面倒くさい」に行き当たる、無意識のものだと思っていたので、そこにどうやってアプローチしていくかを聞きたいと思っていた。

そして、一度は対話を避けてしまった相手と、後日直接話をして解決したというエピソードは、成功事例なのではないかと思い質問したところ、意外なことに、あゆみさんからは、成功事例とは思っていないと言う答えが返って来た。理由を聞いて、Aさんは意図して行動したことでないと成功事例と思えないのだということがわかった。違和感を伝えてもらうためには自分から伝えることも大事、面倒くさいことを意図して選択していくことが必要なんじゃないかと、自分なりに伝えてみたが、具体的な話があまりできていないことに、質問が終わってから気が付いた。

会の途中まで、このままでは前回のチームItoのmtgと同じ感じになってしまうと、焦りを感じていた。

前回のmtgでは、陽子さんから、「ぶつかり合ってる感じがしない」とフィードバックをもらっていた。

お互い遠慮している訳ではなく、私は伝えたいことを伝えて、あゆみさんもそれを受け取ってくれた。でも、もう一歩先に進む話ができている気がした。

このままじゃあまりお役に立てないなと、前回の陽子さんからのアドバイスを思い出し、「とは言え、〇〇さん」と思うこと、ここまでありませんでしたか？と質問してみた。

Aさんが難しいと思っている現状を話してくれ、踏み込んだ話に発展していったと感じた。提案されたことを実行に移そうと思った時、障害になりそうなことや、できない状況について話ができると、前に進むのだと前回教えてもらったが、その通りなんだなあと思った。

ただ、会の終盤は、「自分を大事にできていない」という陽子さんの解釈に聞き入ってしまい、個別フォローにオブザーバー参加しているような気持ちで、一緒に勉強させてもらってしまった(汗)

Itoメンバーだけでは、とてもあそこに着地できなかったと思う。Aさん、そして、人間に対する理解力の差、それを迷わず伝えられる気持ちの差なのだろうと思った。ここでは「スキル」ではなく、あえて「気持ち」と書きたい。「覚悟」と言い換えてもいいかもしれない。

自分なりに、今まで学んだ「踏み込み」や「押し付け」をフル動員して臨んだつもりだったけど、まだまだだということを実感した。

それでも、前回のmtgの時より、本音で話し合えた感があったことは収穫だと思う。(陽子さんが入ってくれたのも大きいけど)

想像以上に中身の濃い会で、昨年まで全員でやっていた目標設定会とは全く違う雰囲気だった。主催者は参加者からフィードバックが得られるのはもちろんのこと自己開示にもなるし、参加者にはコーチングスキルがフルで求められると思う。両者に得るものがあるから、陽子さんは今年はこのスタイルを推奨したんだなあと思った。(逆に今まではそうしたくてもできないと思われていたのだと思うので、ようやく手を放しても大丈夫だと思ってもらえたんだろうか)

(E.M 40代女性 埼玉県)